

講義名	研究演習（人）				
講義コード	25214	授業形態		開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5 時限
担当教員	佐藤 彰宣			サンパリング・コード	SEM250
学部・学科				演習分野	
人間社会学部				佐藤彰宣ゼミナール（趣味とメディアの社会学）	
概要説明					
【概要】 本ゼミでは、趣味とメディアの関係を社会学の視点から研究します。音楽や映画、ドラマ、ファッション、スポーツなど、みなさんにはそれぞれ「これなしでは生きていけない」、あるいは「気になって仕方ない」という「趣味」があるはずです。こうした趣味を楽しむうえでは、SNS や動画などメディアの存在がなくてはならないものとなっています。そこで本ゼミでは、趣味とメディアがどう関わっているのか、社会のなかで趣味がどう実践されているのかを考えていきます。これらの作業は、趣味という対象を通して社会学やメディア論への理解を深めることにもつながります。そのために、趣味にまつわる社会学やメディア研究についてもゼミでの文献輪読や議論を通して学んでいきます。その際、各自の「趣味」を取りまく社会的な文脈や時代背景、またメディアが趣味実践（コンテンツの創作・消費、コミュニケーションなど）に及ぼす効果や影響なども検討してみます。それぞれの「趣味」の面白さや奥深さを研究対象として掘り下げながら、同時にそこに社会学やメディア論としてどのような面白さや発見があるのかについても考えていきたいと思います。 【各年の計画】 【研究演習Ⅰ】 メディアを通じた趣味のつながりについて研究しています。具体的には、人々が社会のなかで自分の趣味をどのように共有し、そのときメディアがどのような役割を果たしているのかを研究テーマとしています。 【研究演習Ⅱ（卒業研究）】 各自の研究構想発表について行い、ゼミでの討議を通して、何をどのように研究するのかというテーマと研究方法を固めていきます。 春休み期間までに調査（資料やデータの収集）を開始し、調査内容を整理しながら、論文を書き始めます。同時に進捗状況について定期的に報告します（報告しないとは研究は進まないの）。ゼミでの討議を参照しながらブラッシュアップしていき、論文の完成を目指します。					
主な卒業論文のタイトル					
教員よりの要望					
・本ゼミで重視するのは「なぜ」を見つける視点です。何気ない日常生活のなかにある「なぜ」という問いを見つけ、趣味とメディアとの意外な関係性を考えることの面白さ（社会学的想像力）に出会い、面白がる力を養っていくことをこのゼミでは目指します。 ・本ゼミの受講生には、みなさん自身が楽しみながらかつ真実に取り組めるテーマで卒業論文を書いてもらおうと考えています。そのためには、積極的に文献を読み、自ら進んでフィールドや史資料を調査する姿勢を求めます。					
選考方法					
志望理由書と面談によって選考します。 本ゼミの希望者は、面談にもかならず参加してください。					

評価方法	
授業での報告、議論への参加、レポート提出などを総合的に評価します。	
教員英字氏名	研究室
Sato Akinobu	研究棟V 5424教室
最終学歴	
立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程修了	
学位	
博士（社会学）	
主な研究活動・社会活動・研究業績	
メディアを通じた趣味のつながりについて研究しています。具体的には、人々が社会のなかで自分の趣味をどのように共有し、そのときメディアがどのような役割を果たしているのかを研究テーマとしています。詳細は教員プロフィール（以下）を参照してください。 https://www.umds.ac.jp/academics/profile/index_sa/sato/	
趣味・特技	
さまざまな「趣味」について語り合ったり、情報交換すること。 新しいメディアに触れること。 街歩き、散策。温泉に浸かること。	
所属	
人間社会学部心理社会学科	
所属学会	
日本社会学会 日本メディア学会 日本スポーツ社会学会 メディア史研究会	
専門分野	
文化社会学・メディア史	
担当科目	
自己発見とキャリア開発A・B コミュニケーション論 社会学基礎 基礎能力（新聞を読む） 教養特講（人間社会学科へのいざない） 社会統計学	
備考	
実務経験の有無及び活用	